

以後とも尚一層のご支援を賜りますよう心よりお願ひ申しあげ挨拶といたします。

今後とも尚一層のご支援を賜りますよう心よりお願ひ申しあげ挨拶といたします。

平成十六年四月一日に栃木県女子神職会として発会し、本日五月七日の佳日に吉田庁長様を始めご関係の皆様の参列をいただき、神社庁神殿にて結成奉告祭を斎行いたしました。

栃木県神社庁の設立は昭和二十一年五月七日と聞き及んでおりますが、図らずも五十八年後の同日に女子神職会発会記念式典を迎えることは、誠に意義深く有り難く感じております。

私達は女子神職としての誇りを持ち、覚悟を新たに神宮の奉斎各神社神職間の交流を図り、自己研鑽と、氏子の教化育成、神社の興隆と発展に努め、国の隆昌と世界平和のために奉仕する所存でございます。

(大田原市鎮座 温泉神社 神官)



ご挨拶

栃木県女子神職会
会長 櫻岡 静子

み や も り

号 10

府会社員社員 14-24
県神委幡台八幡社
木化宇都宮市印刷所
教株式会社井上総合印刷
028(661)4723



栃木県女子神職会発会

発会までの歩み



五月七日に行われた、女子神職会記念式典では、発会までにご指導を承った関東地区の女子神職会（東京都神道婦人会、埼玉県神道婦人会、群馬県女子神職会、山梨県女子神職会）の皆様方も御出席されました。

関東地区代表として、埼玉県神道婦人会の吉田律子会長から「先祖から伝わってきた伝統文化を守っていくのは、神社が一番相応しい。身近な言葉を教えるのも神職が先頭にたってやらなければならない。そう言つた事からも、女子神職は世間話をするかのように丁寧に自然に伝えたいって欲しい」とお言葉を頂きました。

その他、式典には残念ながら御出席いただけなかつたものの、國學院大學の安蘇谷正彦学長と茨城県神社庁の塙東男庁長から祝電を頂きました。

	昭和五十五年	昭和五十六年	昭和五十七年	昭和五十八年	昭和五十九年	昭和六十一年	昭和十一年	昭和十五年	昭和十六年
	八月	八月	八月	八月	八月	八月	十月	五月	九月
平成	神社本庁女子神職研修会衣紋講習会	神社本庁女子神職研修会	神社本庁女子神職研修会	神社本庁女子神職研修会	神社本庁女子神職研修会	神社本庁女子神職研修会	全国女子神職研修会	関東地区女子神職研修会	関東地区女子神職研修会
三年	埼玉県女子神職研修会	埼玉県女子神職研修会	埼玉県女子神職研修会	埼玉県女子神職研修会	埼玉県女子神職研修会	埼玉県女子神職研修会	全国女子神職研修会	関東地区女子神職研修会	関東地区女子神職研修会
四年	山梨県女子神職研修会	山梨県女子神職研修会	山梨県女子神職研修会	山梨県女子神職研修会	山梨県女子神職研修会	山梨県女子神職研修会	全国女子神職研修会	関東地区女子神職研修会	関東地区女子神職研修会
五年	千葉県女子神職研修会	千葉県女子神職研修会	千葉県女子神職研修会	千葉県女子神職研修会	千葉県女子神職研修会	千葉県女子神職研修会	全国女子神職研修会	関東地区女子神職研修会	関東地区女子神職研修会
六年	五月	五月	五月	五月	五月	五月	六月	五月	五月
七年	十月	十月	十月	十月	十月	十月	六月	六月	六月
八年	六月	六月	六月	六月	六月	六月	五月	五月	五月
九年	五月	五月	五月	五月	五月	五月	四月	五月	五月
十年	十月	十月	十月	十月	十月	十月	十月	十月	十月
十一年	九月	九月	九月	九月	九月	九月	九月	九月	九月
十五年	七月	七月	七月	七月	七月	七月	七月	七月	七月
十六年	三月	三月	三月	三月	三月	三月	二月	一月	一月
	第一回設立準備会	第二回設立準備会	第三回設立準備会	神社序理事会にて発会の承認を受ける	神社序理事会にて発会の承認を受ける	神社序理事会にて発会の承認を受ける	神社序理事会にて発会の承認を受ける	神宮会館	神宮会館
	第一回設立準備会	第二回設立準備会	第三回設立準備会	神社序理事会にて発会の承認を受ける	神社序理事会にて発会の承認を受ける	神社序理事会にて発会の承認を受ける	神社序理事会にて発会の承認を受ける	神社本庁	神社本庁
	第一回設立準備会	第二回設立準備会	第三回設立準備会	神社序理事会にて発会の承認を受ける	神社序理事会にて発会の承認を受ける	神社序理事会にて発会の承認を受ける	神社序理事会にて発会の承認を受ける	山梨県護国會館	山梨県護国會館
	第一回設立準備会	第二回設立準備会	第三回設立準備会	神社序理事会にて発会の承認を受ける	神社序理事会にて発会の承認を受ける	神社序理事会にて発会の承認を受ける	神社序理事会にて発会の承認を受ける	水川神社	水川神社
	第一回設立準備会	第二回設立準備会	第三回設立準備会	神社序理事会にて発会の承認を受ける	神社序理事会にて発会の承認を受ける	神社序理事会にて発会の承認を受ける	神社序理事会にて発会の承認を受ける	諏訪神社	諏訪神社
	第一回設立準備会	第二回設立準備会	第三回設立準備会	神社序理事会にて発会の承認を受ける	神社序理事会にて発会の承認を受ける	神社序理事会にて発会の承認を受ける	神社序理事会にて発会の承認を受ける	(宇)二荒山神社	(宇)二荒山神社
	第一回設立準備会	第二回設立準備会	第三回設立準備会	神社序理事会にて発会の承認を受ける	神社序理事会にて発会の承認を受ける	神社序理事会にて発会の承認を受ける	神社序理事会にて発会の承認を受ける	須賀神社	須賀神社
	第一回設立準備会	第二回設立準備会	第三回設立準備会	神社序理事会にて発会の承認を受ける	神社序理事会にて発会の承認を受ける	神社序理事会にて発会の承認を受ける	神社序理事会にて発会の承認を受ける	八坂神社	八坂神社
	第一回設立準備会	第二回設立準備会	第三回設立準備会	神社序理事会にて発会の承認を受ける	神社序理事会にて発会の承認を受ける	神社序理事会にて発会の承認を受ける	神社序理事会にて発会の承認を受ける	小山市	小山市
	第一回設立準備会	第二回設立準備会	第三回設立準備会	神社序理事会にて発会の承認を受ける	神社序理事会にて発会の承認を受ける	神社序理事会にて発会の承認を受ける	神社序理事会にて発会の承認を受ける	須賀神社	須賀神社
	第一回設立準備会	第二回設立準備会	第三回設立準備会	神社序理事会にて発会の承認を受ける	神社序理事会にて発会の承認を受ける	神社序理事会にて発会の承認を受ける	神社序理事会にて発会の承認を受ける	温泉神社	温泉神社

栃木県女子神職の会が第六十二回神宮式年遷宮の御聴許を賜りました。この喜ばしい年に発会した事は、誠に力強く神社界の興隆を心より感じます。神道は国民道德の一一番元になるものであり国家の体面・尊厳を大切に護り保ち、それと同時に我々日本人の精神的な支えとなるものであります。しかし今、日本人の心は壊れようとしています。その為、情操豊かな人間性の快復を期待する氏子の方々が神社界に寄せる期待は誠に高いものであります。我々はこの事を認識し広く国民精神の高揚運動を推し進めて行かねばなりません。

そこで、女子神職の方々には、女性特有の繊細且つ優しい感性から神道教化の範を示し敬神尊皇とご神徳を世間に広く教えて頂きたいのです。最後に、女子神職会の実りある成果を期待いたします。



祝 辞

栃木県神社庁
府長 吉田健彦



結成奉告祭、神社庁神殿前にて記念撮影

来賓祝辞



全国女子神職協議会

会長 松野久野

栃木県女子神職会の発会、誠におめでとうございます。
私達、女子神職の仕事には、なすべき役割が沢山ある
と思います。それは、社頭の清掃を始めとし、氏子の方々
との交流。その中で、年配の方に接すれば年配の方と合
うお話、中年の方には中年の方と合うお話と言った、女
性特有の細やかさでこつこつと教化活動に励んで頂きた
いと思っております。そして、今後はこれを機会に全国
女子神職協議会で他県の皆様との交流を活かし、お互
いが切磋琢磨し立派な女子神職となれますように心より
願っております。



結成奉告祭

神とつながる心を大切に育てよう



栃木県神社総代連合会 会長 塚本 美代次

「わが心清め清めてよく見れば、まことは神も我が心なり」と橋弘政先生が歌われておりますように、人の心は神と直接つながりを持つ唯一のものであります。古来よりの日本の生活文化の中で最も大切なものは、幼児教育による道徳心の高揚であります。長い歴史と麗しい国体の精華が教育の渦源であり、父母に孝に兄弟に友に夫婦相和する平和社会こそが特質であります。

自然への感謝と、すべてのものに靈性を感じ、神の存在を認め神社をつくり、お互いが協力し合って地域社会の発展に寄与し平和社会をつくりあげてきたことが眞の日本の姿であります。然るに占領政策の六年八ヶ月の間に、民主主義と云う言葉に乗せられ、親も子も人格は平

等であるという思想が蔓延したことにより古来より継承して来た日本人の心が崩壊した為に、現在最も憂うべき青少年による凶悪犯罪が頻発している原因を作りあげていることと思われるであります。

この様な社会になつて来たことは、日本人の心が神の心から離れて来た結果であると考えた時に、今こそ神社界が立ち上り、日本精神をとり戻すときであると確信するものであります。本年は神社界が総力を結集して、第六十二回式年遷宮を完成すべき年となりました。去る四月五日には、御聽許が天皇陛下から神宮大宮司に下されたのであります。八万神社の心を一つにして、一千万家庭神宮大麻奉斎運動を式年遷宮遂行の基本として邁進し、伊勢の神風が日本の国土を蔽い、平和国家として悠久に榮えますことを祈念しながら皆様の益々の御健勝と御活躍を御期待申し上げます。

三箇神社の建築

三箇神社

宮司 吉 田 正 導

た。東京で工務店を経営している方から篤志寄付が届き、地元の設備工事業者から大鳥居の奉納があつたことから建築ムードが一層高まり予想以上の浄財が集まり、平成十六年三月に竣工の運びとなりました。

氏子の皆さんには、心から感謝と御礼を申し上げます。

(那須郡南那須町鎮座)

完成した御社殿



塙村・西戸田村・入江野村の三村が明治維新の町村合併により三箇村となる。各村に鎮座していた愛宕神社・三島神社・湯泉神社も大正期に合祀され「三箇神社」と銘名されました。
主祭神は火産靈命・大山祇命・大己貴命でおもに「火伏せの神」として崇められ江戸中期より氏子・崇敬者によって信仰を深めてきました。

平成十四年十月一日台風二十一号の強風で境内地の大木一本が倒伏し、本殿の雨覆殿が倒壊してしまいました。この被害をみて、氏子総代会・世話人会を度重ねた結果、建設委員会を新設し社殿の新築をすることに決定した。先づ建築資金をどうするか協議を重ねた末、奉贊金として氏子の皆さんに協力を仰ぐことになりました。神社の預貯金・積立て金の計画がなかったので氏子各位の負担額が重くなることを考慮し、どのような方法で負担するのがベストか再度協議しました。「均等割」「五年計画」等の案が出たが、氏子一人一人の負担率を考え任意寄付でまかない二年計画で実施することになりました。

受賞者紹介

発展興隆に寄与した。

平成十五年度神社本庁規定表彰者

◎規定表彰第三条第三号該当者

貴下は敬神の念篤く多年の間神徳の発揚に意を注ぎ神社の經營を援け斯道のために多大の貢献をなされたことは氏子崇敬者の龜鑑といふべきであります。仍つて表彰規定に基いて審査委員会の審査を経てここに表彰状を呈しその功績を顕彰します。

平成十六年二月三日

神社本庁総裁 池田 厚子



木村好文氏 足利市助戸三丁目五四六番地三。昭和十八年二月六日生。満六十才。平成五年四月栃木県護国神社責任役員に就任。栃木県遺族連合会長。栃木県護国神社奉賛会を設立する。靖国神社及び護国神社を守る会を設立する。護国神社に多額の浄財を寄進され神社護持運営に寄与された。

岡 進氏 那須郡馬頭町大字盛泉一、九〇〇番地。昭和七年二月十八日生。満七十一才。昭和五十五年四月温泉神社責任役員就任。温泉神社責任役員をはじめ、馬頭町氏子総代会長及び、南那須氏子総代会長、栃木県氏子総代連合会理事等の要職につかれ、地域の神社の



平成十五年度全国神社総代会表彰者

◎表彰規則第二条第一号該当者

あなたは敬神の念篤く多年神徳の宣揚に意を注ぎ神社の經營を扶け斯道のために多大な貢献をなされました。このことは氏子崇敬者の龜鑑といふべきであります。

よつて表彰規則に基づき記念品を贈呈してその功績を顕彰します

平成十五年九月四日

全国神社総代会長 山口 信夫



高崎輝夫氏 那須郡黒羽町大字中野内一、二五六番地。昭和三年六月十日生。満七十四才。平成五年四月温泉神社総代就任。神社の護持運営に寄与される。神社を支え、神徳の発揚に心がけ神社と地域の結びつきと連帯を深め、氏子崇敬者の教化育成に貢献している。現在神道政治連盟北那須支部長として活躍中。

菊地日出夫氏 栃木県足利市八幡町七九六番地五。昭和七年三月二十九日生。満七十一才。昭和四十九年四月一日八幡宮総代就任。総代就任以来、神社護持運営に力を尽くす。社殿保存修理事業及び社務所の改築に当たり、中心的な役割を果す。平成十三年四月一日から足利支部神社総代会長として神社振興に貢献された。





川久保真治氏

安蘇郡田沼町大字山越一
四一番地二。昭和十年十二月二十五日生。

満六十七才。昭和六十二年四月一日加茂別

雷神社責任役員就任。加茂別雷神社の神徳宣揚に寄与する。神楽殿新築に伴い、田沼

太鼓の例祭奉納に尽力している。現在、安佐地区神社総代協議会会长、栃木県総代連合会理事、神宮崇敬会評議員等の要職を歴任活躍中。

平成十五年度神宮大麻頒布優良従事者表彰者



八木澤貢氏

今市市瀬尾二、八六八番地。

昭和七年三月三十一日生。満七十一才。瀬尾

神社神札頒布に三十八年間従事し、毎年約七百体の大麻を頒布し続けて足跡を残された。



鈴木三喜氏 小山市大字飯塚一、八二八番地。昭和五年二月二十五日生。満七十三才。昭和五十三年四月一日天満宮・熊野神社責任役員就任以来、氏子全世帯に神宮大麻の頒布を続けている。新しい住宅が建てば、神棚を設けさせて、神宮大麻を受けさせ、大変な努力を続けている。

藤栄 武氏 下都賀郡壬生町北小林一九九番地二。大正十一年十月十二日生。満八十才。昭和五十年小林神社総代に就任、昭和五十九年責任役員に就任されて、下都賀支部総代会評議員として活躍。永年大麻の頒布に献身的に貢献された。現在、磐裂根裂神社の相談役として総代を指導し、大麻頒布に努めている。

国旗の理解と掲揚推進功績者

あなたは当協会の主旨とする国旗の正しい理解とこれが掲揚推進につき多大の貢献をされました。よってここに感謝状を贈り心から敬意を表します

平成十六年一月二十七日 社団法人国旗協会会長 渡邊 宏



吉田金庫店 代表取締役 吉田 真氏

有限会社吉田金庫店は二荒山神社の氏子として敬神の念厚く、神社運営に積極的に協力され、吉田真氏は九十六才の高齢にもかかわらず、国旗掲揚運動の推進者として、かかわらず、国旗掲揚運動の教化に勤めている。町内及び氏子に対しても積極的に国旗掲揚の教化に勤めている。



松川屋那須高原ホテル 代表取締役

廣川允彦氏

温泉神社責任役員並びに氏子会長として敬神の念篤く、神社運営に深い理解を持ち、祭典に積極的に参加され、祝祭日には必ずホテル玄関に掲げ、国旗掲揚運動の一翼を担われている。



て いる。

平成十六年度
栃木県神社庁臨時表彰受賞者

永年奉仕にて受賞された方々

橋本	本田	本田	星	川井又兵衛	菊地	小山田仁一	藤田	大森	穴山	興野	小林	塩野谷	渡辺純	塩原	笹沼	笹沼	和夫
栄治	且元	宏之	幸一	幸雄	幹二	冀	都盛	開作		秀郎	弘司	寛	一郎	一夫	昭		
北那須	北那須	北那須	北那須	北那須	南那須	南那須	南那須	南那須	南那須	南那須	芳賀	芳賀	芳賀	宇賀	宇賀	宇賀	宇賀
温泉神社役員	温泉神社総代	温泉神社総代	温泉神社総代	温泉神社総代	温泉神社役員	温泉神社役員	別雷神社役員	示現神社役員	鷲子山上神社総代	温泉神社役員	篠尾神社役員	八雲神社総代	三嶋神社役員	羽黒山神社役員	羽黒山神社役員	羽黒山神社役員	羽黒山神社役員
宮司	"	"	"	"	"	"	宮司	宮司	宮司	"	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	"	"
渡辺	"	"	"	"	"	"	人見	西山	和地	"	岩村	益子	柳田	小堀	修一	阿部	康夫
恒夫							昇三	政典	美彦	"	益見	孝	耕太	"	"		

淨財奉納にて受賞された方々



宇賀神
愛宕神社氏子
宮司 金子
（上都賀）
信彦 博

鈴木
愛宕神社氏子
宮司 金子
（上都賀）
信彦 誠

宇賀神 昭男
愛宕神社氏子
宮司 金子
（上都賀）
信彦

宇賀神 重信
愛宕神社氏子
宮司 金子
（上都賀）
信彦

落合好夫
愛宕神社氏子
宮司 金子
（上都賀）
信彦

鈴木勲
愛宕神社氏子
宮司 金子
（上都賀）
信彦



中荒井文夫
愛宕神社氏子
宮司 金子
（上都賀）
信彦

藤江利司
愛宕神社氏子
宮司 金子
（上都賀）
信彦

中荒井秀男
愛宕神社氏子
宮司 金子
（上都賀）
信彦

秋沢丹治
愛宕神社氏子
宮司 金子
（上都賀）
信彦

秋沢操
愛宕神社氏子
宮司 金子
（上都賀）
信彦

秋沢敏之
愛宕神社氏子
宮司 金子
（上都賀）
信彦



芳井	島田	大川
義治	嘉内	清
賀	安	南那須
"	佐	坂和神社
八雲神社	示現神社	宮司
"	"	小堀
和地	早乙女昭司	修一
美彦	早乙女昭司	



大橋康作	安房神社氏子(下都賀)
間フミ	宮司沼部正昭
平	安房神社氏子(下都賀)
間フミ	宮司沼部正昭



木村幸太郎	株式会社マルゼン
渡辺昌彦	有限会社渡辺製作所
木村真吾	有限会社木村牧場
阿久津治司	山田龍太郎
山田龍太郎	木村幸太郎

淨財・金品奉納にて受賞された方々



土木用材	木村幸太郎
相鉄興産株式会社	株式会社マルゼン
高橋神社崇敬者(下都賀)	渡辺昌彦
関東営業所	木村真吾
宮司角田修	山田龍太郎

建築用資材	木村幸太郎
社殿設計図	株式会社マルゼン
宇梶栄	渡辺昌彦
藤原宏史	木村真吾
瀧尾神社氏子(上都賀)	山田龍太郎
瀧尾神社氏子(上都賀)	木村幸太郎
瀧尾神社崇敬者(上都賀)	株式会社マルゼン
宇梶勝雄	渡辺昌彦
瀧尾神社氏子(上都賀)	木村真吾
宮司増渕文男	山田龍太郎
宮司増渕文男	木村幸太郎

金品奉納にて受賞された方々

神社改築

関戸工務店

浅間神社氏子(芳賀)
宮司 小堀 修一

社殿扉

羽石俊男

菅原神社氏子(芳賀)
宮司 小堀 修一

石燈籠

加藤博

八幡宮氏子(芳賀)
宮司 横山 仁美

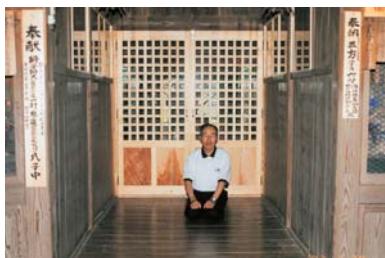
恵比寿・大黒像

小堀力ネ

八幡宮氏子(芳賀)
宮司 横山 仁美

狛犬一対

高橋弘一

高靈神社氏子(芳賀)
宮司 小幡正之

燈籠

大森

啓正子

亀岡八幡宮氏子(芳賀)
宮司 横山 仁美

燈籠

高橋

文男

日枝神社氏子(芳賀)
宮司 横山 仁美

燈籠

豊田

光蔵

木幡神社氏子(塩谷)
宮司 宮本 勝利

水掛石梶

新井

亀一

鷲子山上神社氏子(南那須)
宮司 長倉 樹

鳥居・社号標

相馬

操

雷神社役員(北那須)
宮司 渡辺啓二郎

掲示板

檜山

達郎

黒磯神社氏子(北那須)
宮司 月江 寛智

彫刻物
改鐵成
瀧尾神社崇敬者（上都賀）
宮司 増渉 文男絵画
増山トシ温泉神社崇敬者（北那須）
宮司 人見 昇三

社殿

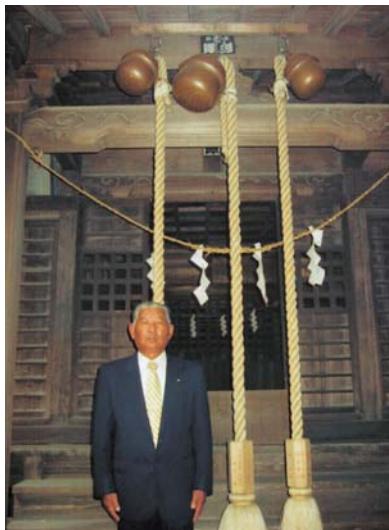
愛宕神社氏子一同
宮司 金子 信彦水盤
秋室 井元 勝夫 智
温泉神社氏子（北那須）
宮司 月江 寛智

狛犬

岸 喜八郎
大宮神社役員
宮司 林 唯元

子供神輿

秋元 輝重

三島神社氏子（北那須）
宮司 櫻岡 米藏本坪鈴・鈴緒
市川 明八幡宮氏子（下都賀）
宮司 林 唯元

真榦

鈴木 勳

愛宕神社崇敬者（上都賀）
宮司 金子 信彦

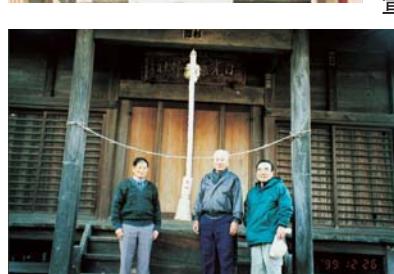
石段

渡辺久恵

愛宕神社崇敬者（上都賀）
宮司 金子 信彦

鳥居
久保治示現神社氏子(足利)
宮司 小野寺 建富獅子頭・竜頭
名渕俊夫
八幡宮崇敬者(下都賀)
宮司 林唯元

御神籤掛

塩田正一
キヨタキヨアキ
宮司 沼部正昭鈴緒
植竹上之宮神社氏子(足利)
宮司 小野寺 建富鉄製鳥居
株式会社オーリマ
大島勝一郎
国分工務店
愛宕神社氏子(下都賀)
宮司 板垣彰鈴・鈴緒
古菅石材工業
古菅康督
金井神社氏子(下都賀)
宮司 宇賀神義宣屋外社
白石博上之宮神社氏子(足利)
宮司 小野寺 建富本坪鈴・鈴緒
鈴木昭二
日光鹿島神社氏子(足利)
宮司 小野寺 建富神社運営
松葉福次
二柱神社役員(足利)
宮司 小堀一郎

氏子青年会の紹介

◆日光二荒山神社 男体山登拝講社青年部

部長 石原 浩

講社青年部は、日光二荒山神社の御神体山である男体山を崇敬する講社の青年部です。青年部組織活動を通して、将来の講中の幹部養成を目的として、昭和三十七年に創立されました。現在、第十一代の部長で部員数は七十四名、県内全域から入部を頂いております。

部会は、神社祭典に従事する活動と青年部独自の行事で構成されます。主な年間行事は、七月に宿泊しての男体山登拝道の整備奉仕、男体山登拝講社大祭当日の警備と飲物売店の出店、年末の新年大注連縄奉製作業です。その他、二月の建国記念式典パレードの参加、那須御用邸勤労奉仕、夏の家族の集い等があります。今年は六月の「大国まつり」に併せて、家族の集いを実施致しました。県内各地の部員との交流は様々なつながりをもたらしてくれます。今後も、神社や神社庁の行事には、可能な限り柔軟に取りくみながら、会の継続と充実を念願するところであります。



日光二荒山神社前にて記念撮影



下野の文化財散歩

城鍬舞

(県指定無形民俗文化財)

大田原の城は、大田原氏がもと町島に水口居館と称し居住していましたが、天文十四年（一五四五）大田原資清に至り、前室村（大田原）に築城し、前室城と称して移り住みました。資清は築城にあたり、領内六か村の農民に工役させ、竣工すると酒をふるまって労をねぎらいました。

そのとき石神村（上石上）の農民藤兵衛という人が、踊りは当初は一定の形式もなかつたようですが、次第に舞踊化して伝承され、例年十月十七日、大田原市上石上 温泉神社に奉納されています。

踊りは醉いに乘じ工事に使ったスキやクワを持って踊りだしました。その姿があまり面白かったので、以来毎年正月に彼等を城中に招いてこれを演じさせたといわれています。



編集後記

神社広報誌「みやもり」第十号が発刊の運びとなりましたのでお届けいたします。平成七年に神社振興対策懇談会に利用いただく広報誌として創刊し第三号より受賞者紹介の頁を設け県内神社氏子崇敬者の皆様の功績活躍をお知らせ致しております。

今号は本年四月一日に女子神職三十七名にて「栃木県女子神職会」が発会されましたので発会式関係の特集記事を掲載いたしました。女性の観点にて斯界発展神社護持のため尽力下さいますようお願い申し上げます。

今後も神社の身近な話題や皆様の活躍を広報したいと考えておりますのでご寄稿等がございましたらお寄せ下さいますようお願い申し上げます。

編集委員長 若松 豊明

編集委員	葭田 真彦、外鯨 泰子
	小幡 正之、荒井 清律
	吉田 正導、星野 芳典
	増渕 文男、大山 廣史
	田中 教文、金子 宗生
小堀 荒川	板垣 彰、沼部 博成
俊夫、堀口 千裕、永澤 宣浩	邦夫